

# 宮島

2年前に、宮城の松島、1年前に京都の天橋立は偵察済みである。日本三景で、一番行ってみたいかかったところにして、唯一行っていなかったのが広島安芸にある宮島だ。

テレビなどでよく目にする、あの鳥居には不思議な美しさを感じたも

のです。さすがゴールデンウィークだったこともあり、広島は最後の最後までホテルを確保することが出来なかったが、私はどうしても安芸の宮島だけには行きたかったので、今年無理やり連れて行ってもらった。

宮島といえば、もう<sup>いつくしま</sup>厳島神社であるが、そもそも宮島と厳島とはどう違うのだろうか。正式な名称は厳島とのことだが、江戸時代以降に、「お宮がある島」から「宮島」という呼ばれ方もされたみたいであり、厳島も宮島も同じ場所を指しているの、違いという違いは全くない。ただ単に厳島より、宮島の方が呼びやすいということで宮島という呼び方が定着しているみたいだ。なんといったって、宮島は島である。宮島まではフェリーに乗



フェリーから見た大鳥居

って向かう。フェリーに乗っている時間は数十分くらいで、比較的すぐに着いてしまうといった感じであった。フェリーに乗り込み、すぐさま2階の見晴らしの良い場所を確保する。やはりあの鳥居が見えてくると、なんだか込みあげてくるものがある。前



宮島フェリー乗り場



島から見た大鳥居

述したように、日本三景の1つだし、ユネスコの世界文化遺産にも登録されている。特に外国人からの人気は凄まじいもので、いまや日本を代表するトップクラスの名所といっても過言ではないと思う。私が訪れた時もたくさんの観光客で賑わっていた。

宮島は面積 30.39 km<sup>2</sup>の島で、島には神社の他に、水族館や商店街といった観光施設が存在する。それでも宮島の魅力はなんといっても自然の美しさだと思う。青い海に囲まれ、緑が生い茂る小径を散策する。由緒ある仏閣や鹿を見ながら至福のひとつときを味わう。鹿といえば、奈良にもいるが、宮島の鹿はとてつもなく狂暴であるといった印象を受けた。観光客の手荷物をひったくろうとしたり、子犬を踏んづけたりなど、奈良の鹿とは全然違う。まあそれはそれで「広島っぽい」感じがしていいのかもしれない。

宮島そのものは日本三景の1つに数えられているが、それ以外にも海上に立つ16mの鳥居は、三重の伊勢神宮と奈良の春日大社と並んで、日本三大鳥居に数えられている。また、平舞台は大阪四天王寺の石舞台、住吉大社の石舞台と並び日本三舞台に数えられている。なにかと三本の指に入る厳島神社である。そもそも厳島神社というのは、イチキシマヒメを祭神とする神社の事を指し、その数は全国500社にもものぼる。それでもって廿日市市にあるあの厳島神社というのが、その総本山なのである。

593年に創建され、「神にいっ斎く(すなわち仕える)島」という事から名前がきている。それゆえ島そのものが、神として信仰されていたという、なんとも神秘的な場所である。

平安時代末期は、神主の佐伯景弘と当時の安芸守であった平清盛を契機に平家一族から崇敬を受けた。1168年には、平清盛がすでに現在と同じ規模の社殿を造営し、厳島神社は平家の氏神となった



宮島行きのフェリー



のである。平家滅亡後は、源氏からも崇敬を受けるものの、1207年と1223年は火災により、建物のすべてを焼失している。現在残っている社殿は1240–1243年以降に造営されたものとされている。

興味深いことに、鎌倉時代までは禁足地とされており、

南北朝時代以降、社人<sup>しゃにん</sup>や僧侶が禁を破って、住む様になったみたいである。

天文24年に毛利元就<sup>もうりもとより</sup>、陶晴賢<sup>すえはるかた</sup>との間で厳島の戦いが行われ、毛利元就が勝利を収めて、厳島を含む一帯を支配下に置いた。元就は厳島神社を崇敬し、大掛かりな社殿修復も行った。あの豊臣秀吉も九州遠征の途上で参拝し、千畳閣<sup>せんじょうかく</sup>の造営を行っている。なにかと歴史の節目で存在感を放つ厳島神社である。

宮島のシンボルといっても過言ではない、あの大鳥居。結構沖の方に立っているようにも見えるが、実際は沖合200mとそんなに遠くない。それゆえ、潮が引いた時は歩いて鳥居の所まで行き、くぐれるみたいだ。逆に時間帯によっては、潮が満ちていて、鳥居のすぐ近くまで船で近づけるみたいである。ただ最近は、観光客が鳥居の亀裂部分に硬貨を差し込んでいくがために、老朽化が進み、神社側は大変迷惑しているという。こういった、歴史的建造物で、こういった悪質な悪戯や迷惑行為の事をよく耳にするが、実にけしからん話だ。そんな事をする人間は、もう来てはいけないと思う。現在の厳島神社の鳥居は1875年に再建されたものであり、棟の高さが16.6m、柱間10.9mである。主柱はクスノキで1本が宮崎県産、もう1本が香川県産である。現在の鳥居は平清盛の造営時から数えて、8代目にあたる。いくら8代目とは





いえ、やはり見るからに歴史を感じるといふか、貫禄があつて、見ていてなんだかパワーを感じる。

これだけ世界的に有名な厳島神社であるが、意外にも旧社格は官幣中社である。これだけ歴史もあつて、日本三景にも選ばれていて、神の島にある

神社であるにもかかわらず不思議な話である。普通に考えたら、てっきり官幣大社なのだが、そうではない。官幣大社でない理由はわからないが、何かきっと事情があるのだろう。それでも私は宮島も厳島神社も好きである。日本三景でも私の中では断トツ。広島人というのは、なぜだかわからないが、人によっては結構苦手と思われることも多い様で、それ故に、広島という場所も、わりと敬遠されがちといった印象を受ける。私は広島が結構好きである。今回はお好み焼きもカキフライも食べられなかったが、それも含めて、またぜひ行きたいと思える場所であった。新幹線も通っているわけだし、行こうと思えばいつでも行けるのである。今回は神秘的な広島を堪能できたので、次回はまたガラッと変わった広島的一面を満喫できることを楽しみにしている。

ウェバー伊安

